

集団の学習において特別な支援の必要な児童生徒が満足感を味わえるようにするための支援の工夫

—授業のユニバーサルデザイン化と個別の支援を組み合わせる—

太田市教育研究所（特別支援教育班）

■所長 中島 俊明

■執筆者 教諭 鏡 明子

■研究員 平成21年度研究員 4名

■住所 〒370-0495

群馬県太田市粕川町520

■電話 0276-20-7089

■URL <http://www.ota.ed.jp/boe/kenkyujyo/index.htm>



1 はじめに

平成19年から特別支援教育が始まり、特別支援学校、特別支援学級はもとより小・中学校の通常学級に在籍する特別な支援の必要な児童生徒に対しても特別支援教育が求められている。

太田市教育研究所の特別支援教育班では2年間にわたりすべての子への支援であるユニバーサルデザイン（以下UD）とUDを含む授業のUD化の有効性について幼稚園、小・中学校、特別支援学校で研究を進めてきた。

ここでは、研究の2年目の取組として授業のUD化と個別の支援を組み合わせる特別な支援の必要な児童生徒が満足感を味わえるようにするための授業実践2例を紹介する。

2 研究の概要

(1) 研究のねらい

集団の学習において特別な支援の必要な児童生徒が満足感を味わえるように授業のUD化を図るとともに個別の支援の工夫を行い、その支援の有効性を授業実践を通して明らかにする。

(2) 研究の方法

【実態把握】

【学習集団の実態】

- ・校種、学年、人数
- ・学習にかかわる能力

【特別な支援の必要な児童生徒の実態】



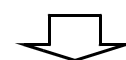
【授業のUD化と個別の支援】

「支援」のUD7原則を基にした学習集団への共通の支援（UD）

- UD1 公平性
- UD2 自由度
- UD3 単純性
- UD4 分かりやすさ
- UD5 安心・安全
- UD6 省体力
- UD7 スペースの確保

特別な支援の必要な児童生徒への支援

授業のユニバーサルデザイン化を補う
個別の支援



【満足感】

「できた」 「分かった」

「支援」のUD7原則

<p>UD1 公平性 Equitable use 公平な使用</p>	<p>すべての子に個に応じた学習の機会・時間を保証する。 【学習の機会・時間の保証】 ○書くための時間を適切にとる。 (例)誰もがすぐ手にすることができるヒントカードや下書き用カード</p>
<p>UD2 自由度 Flexibility in use 柔軟な使用</p>	<p>すべての子の多様な思考・柔軟な発想をいかにかす。 【多様性の保証】 ○多様な考えや意見を取り入れる場を設定する。 (例)発想や考えを書き入れることのできるワークシート (例)自由な発想でいろいろな使い方ができる環境作り</p> <div data-bbox="1161 387 1358 562" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1177 562 1342 577">おはしきを操作できるワークシート</p>
<p>UD3 単純性 Simple and intuitive 直感的単純性</p>	<p>すべての子にとって分かりやすい教材・教具を取り入れ、授業構成を工夫する。 【教材の工夫】 ○具体物・半具体物を用意する。 ○電卓やパソコン等を活用する。 ○途中に作業や実習等を取り入れ、授業に変化を持たせる。</p> <div data-bbox="1142 640 1369 808" data-label="Image"> </div>
<p>UD4 分かりやすさ Perceptible information 認知できる情報</p>	<p>すべての子が情報(課題)を理解することができるような工夫を心がける。 【視覚的情報の活用】言葉だけでなく、視覚的なものを取り入れる。 ○興味を引き出す教材を工夫したり、提示の仕方を工夫したりする。 (例)授業のめあてや要点を、カードや文字で黒板に示す。 カードや絵、写真を活用する。 手順や段階などを視覚的にとらえられるようにする。 【聴覚的情報の活用】 ○具体的な言葉で、短くはっきりと話す。 ○注意を引きつけてから話す。 ○興味を持たせる導入の工夫をする。 【書くときの配慮】 ○板書は少なくし、文字の色づかいや大きさを工夫する。 ○板書の書き写す部分を、色を変えたり線で囲んだりする。</p> <div data-bbox="1066 1037 1388 1178" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1118 1196 1337 1211">6×3 を視覚的にとらえやすくする</p>
<p>UD5 安心・安全 Tolerance for error 失敗に対する寛大さ</p>	<p>すべての子が間違いや失敗を恐れず、生き生きと活動できる学習環境を整える。 【肯定的評価】 ○異なった意見も認め合える学習集団作りを行う。 【不安の除去】 ○受容的な言葉かけを行う。</p>
<p>UD6 省体力 Low physical effort 少ない身体への負担</p>	<p>すべての子がそれぞれの発達段階にあった課題を心がけ、過度の負担感を感じさせない。 【スモールステップ】 ○段階を踏んだ作業工程、学習課題を設定する。 (例)問題を焦点化させる切り抜きカードを使用する。</p>
<p>UD7 スペースの確保 Size and space for approach and use</p>	<p>すべての子が学習に集中するための学習環境の整備等を心がける。 【教室環境の整備】 利用しやすい大きさと空間 ○気の散りやすい掲示物等は、視野に入らないようにする。 ○教室の前面は整理して、授業に関係ないものは置かないようにする。</p>

3 授業実践

(1) 小学校通常学級の実践事例 2年算数科 「形をつくろう」(形づくり)

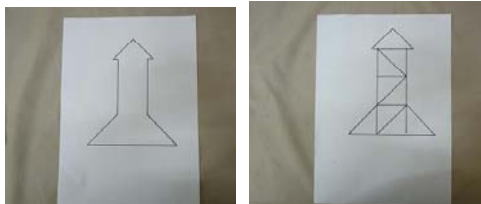

ア 実態把握

【学習集団の実態】	
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校2年25人 ・算数の学習には積極的で、発問に対する反応がよい。 ・1年生からの積み重ねの差があり、1つのことを仕上げる時間に差が出ている。 ・操作活動は好きだが、学習と遊びの区別がつかず、操作物で遊んでしまい、指示を聞き逃す児童が見られる。 ・興味をもったことには最後まで取り組み、やり遂げることができる。 	<p>【特別な支援の必要な児童の実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話を集中して聞くことや課題に集中して取り組めず、飽きたり、やることが分からないと大声を出したり、隣の子に話しかけたりする。 ・操作物で遊んでしまい、操作活動終了後でもしまふことができず、手悪さの道具になってしまう。 ・課題文から、何をしたらよいかを読み取れず、戸惑っていることがある。 ・よくできたことを認めてやることで、意欲が高まり、活動が意欲的になる。

イ 授業のUD化と個別の支援の組み合わせ

◎ 全体の目標 ○平面図形に親しみながら、基本図形を構成する。

◎ 対象児の目標 ○ヒントカードをもとにして、基本図形を構成する。

学習活動	共通の支援 (UD)	個別の支援
<ul style="list-style-type: none"> ・学習用具の準備・確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・道具の置き場所を黒板に掲示し、机の上に必要な用具の置き場所を指定する。 (UD 7 スペースの確保)	<ul style="list-style-type: none"> ・道具の置き場所を確認し、混乱しないようにする。
<ul style="list-style-type: none"> ・ロケットの形を色板で作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロケットの絵→色板で作ったロケットの影絵の順に提示し、形づくりのイメージを持たせる。 (UD 4 分かりやすさ) ・キーワードを取り入れながら、具体的に形づくりを教師がやってみせる。 ・段階に応じて、ヒントカードを活用してよいことを知らせる。 (UD 6 省体力) ①白抜きの絵 ②色板のマス目の絵 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・黒板に掲示した掲示物の縮小版を手元に置かせ、作る形を確認する。 ・色板の向きを変えることで形が変わることを手元でやってみせる。 ・色板のマス目が入った色つきのカードを活用してよいことを伝える。 <div style="text-align: center;">  </div>
<ul style="list-style-type: none"> ・ロケットの形を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・できた児童に実際に黒板で作らせる。 (UD 5 安心・安全)	<ul style="list-style-type: none"> ・形ができていたらできたことを大いに褒める。

(2) 中学校特別支援学級の実践事例 生活単元学習 「マクドナルドへ行こう」

ア 実態把握

【学習集団の実態】

- ・ 1年生3人、2年生2人の特別支援学級で、生徒それぞれの生活体験や発達段階の差がある。日常生活や学習で、できる事柄の差が大きい。
- ・ 食べ物や買い物に関心がある。
- ・ 新しい活動に興味がある。
- ・ 全員発語があり、ひらがなカタカナが読める。
- ・ 動画や画像に注目しやすく、またそれらを使った指示を理解しやすい。
- ・ 大きな額で支払うことは困難。5円、50円、500円の理解は未熟。
- ・ 電卓を利用した計算の学習経験がある。
- ・ 段階的に学習活動を積み重ねることで新しい内容を身につけることができる。

【特別な支援の必要な生徒の実態】

- ・ 一人で外出することはなく、買い物の経験はほとんどない。
- ・ 一対一や初めての場面、活動では萎縮して必要なことが伝えられない。
- ・ ひらがな、カタカナが読める。文字の読みはひらがなを拾い読みするので伝わりにくいことがある。話す際は語彙が少ないせいもあり会話のやりとりが成立しないことがある。
- ・ 1円、10円、100円の金種を区別できる。
- ・ 10円や100円のまとまりを作って金額に対応させることが困難である。
- ・ 値段を読むこと(3桁)は不正確である。
- ・ ブロックや指を使って繰り上がりや繰り下がり計算ができる。

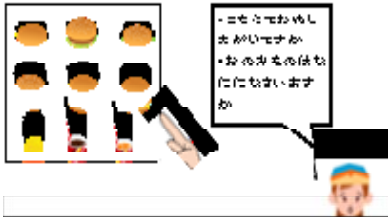
イ 授業のUD化と個別の支援の組み合わせ

◎全体の目標

- 自分の選んだ品物を購入することができる。
- 金額に見合ったお金で支払いができる。
- 小遣い帳をつけることができる。

◎対象生徒の目標

- 指さしや音声言語を使って自分の選んだ品物を購入することができる。
- ぴったりカードや位取りカードを使って支払いができる。
- 電卓を使って残金が計算できる。

学習活動	共通の支援 (UD)	個別の支援
・ 本時の学習内容を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習内容がつかみやすいように図で提示する。 (UD 4 分かりやすさ) 	
・ 財布の中身を確認し、小遣い帳に記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合計額の算出に電卓を利用する。 (UD 6 省体力) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 間違いなく計算できているかT 2は見守る。

学習活動	共通の支援 (UD)	個別の支援
<ul style="list-style-type: none"> 大きなメニューと商品を照らし合わせて希望の品物を購入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 大きな画像のメニューを準備することで品物と対応しやすくする。 (UD 4 分かりやすさ) <div data-bbox="459 470 834 801" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>〈メニュー 2 種類〉</p>  <p>通常 大きな画像</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> モデルとなる生徒の活動を注意深く見させる。 品名や指さしで自分の希望を伝えることも許容する。 希望の品が言えるように品名入りの絵カードを準備し、希望があれば持たせる。 <div data-bbox="890 555 1353 801" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>物名入りカード</p>  </div>
<ul style="list-style-type: none"> お金を取り出し、支払う。 (お釣りをもらう) 購入した品を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ぴったりの金額で支払えた際には大いに賞賛する。 (UD 5 安心・安全) 50 円や 500 円を使えた際には大いに賞賛する。 (UD 5 安心・安全) 希望通りに購入できた際には大いに賞賛する。 (UD 5 安心・安全) 	<ul style="list-style-type: none"> ぴったりカード・位取りカードを利用することで、硬貨をいくつ出すか確かめながら出せるようにする。 <div data-bbox="890 969 1380 1216" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <p>ぴったりカード 位取りカード</p> </div>
<ul style="list-style-type: none"> 通常のメニューを見て希望の品物を選び、購入する。 お金を取り出し、支払う。 (お釣りをもらう) 購入した品を発表する。 小遣い帳の記入をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 通常の大きさのメニューを準備し、店舗の雰囲気体験ができるようにする。 (UD 4 分かりやすさ) ぴったりの金額で支払えた際には大いに賞賛する。 (UD 5 安心・安全) 50 円や 500 円を使えた際には大いに賞賛する。 (UD 5 安心) 希望通りに購入できた際には大いに賞賛する。 (UD 5 安心・安全) 電卓を利用する (UD 6 省体力) 	<ul style="list-style-type: none"> モデルとなる生徒の活動を注意深く見させる。 品物名入りの絵カードを使うことであわてずに選んだ品名が言えるようにする。 ぴったりカード・位取りカードを利用して硬貨をいくつ出すか考えながら出せるようにする。 間違いなく計算できているか T 2 は見守る。

4 研究の結果と考察

(1) 小学校通常学級について

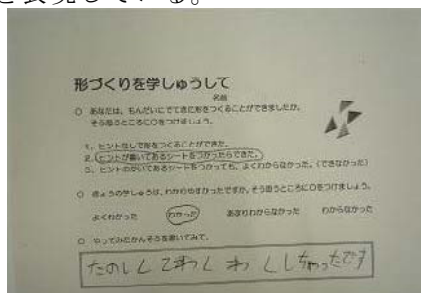
ア 授業のUD化と個別の支援の組み合わせ

○ 学習の前に、道具の置き場所を指示した掲示物を黒板に貼りだしたこと(UD 7)は、学級の児童にとって一目で学習で使うものを理解し、用意することに有効だった。

○ 黒板に色板の教具を提示したこと(UD 4)やヒントカード(UD 6)は対象児を含め学級の児童にも自力解決することに有効に働いた。

イ 特別な支援の必要な児童の満足感

対象児は普段は学習に集中できず、机にある色板などの操作物で遊んでしまうことが多かった。しかし、今回の授業では1時間飽きずに課題に取り組み続け、「もっと、やりたい。」とロケット作りに何度も挑戦していた。学習のふりかえりカードに楽しく学習した気持ちを表現している。



(学習のふりかえりカード)

(2) 中学校特別支援学級について

ア 授業のUD化と個別の支援の組み合わせ

○ 立体的でリアルな具体物での疑似体験

(UD 4)は、買い物への期待を高め、対象生徒の挙手を多くしたり、一番に列に並ぶ、といった積極的な活動を引き出すのに有効であった。

○ 対象生徒は注文のときに声が小さかったので、個別の支援として名入りカードを渡した。すると、それを見ることで、安心してはっきりとした声で注文できた。

イ 特別な支援の必要な生徒の満足感

注文したものを手に入れることができたときにとってもうれしそうな表情をしていた。また、自己評価で、指導者の「ぴったり支払え

た人は二重丸ですね。」という説明を聞くと、自分の評価を「○」から「◎」に変更した。自分の活動に納得している様子が見て取れた。

(3) まとめ

○ 授業のUD化は通常学級、特別支援学級の学級の児童生徒に対して課題を分かりやすくし、自力解決することに効果があった。特別な支援の必要な児童生徒は、さらに個別の支援を組み合わせることで、自力解決でき、学習への満足感を味わうことができた。

○ 通常学級と特別支援学級で授業のUD化と個別の支援の割合を比べると通常学級で授業のUD化の効果が高かった。一方、特別支援学級では個別の支援がとても重要であった。

5 研究の成果と今後の課題

(1) 成果

○ 授業のUD化である共通の支援について「支援」のUD 7原則として表にまとめたことはどのような支援をすればよいのかが分かる手助けになった。

○ 授業のUD化は特別な支援の必要な児童生徒はもちろんだが他の児童生徒の理解や自力解決を助けるものでもあった。

○ 授業のUD化だけでは十分な理解が得られなかった児童も個別の支援を組み合わせることで自力解決を促すことができた。自力解決をしたときに「できた」という満足感や「もっとやりたい」という学習意欲を引き出すことができた。

(2) 課題

○ 授業のUD化と個別の支援の組み合わせは学習集団や教科にまた特別な支援の必要な児童生徒の実態によってそのバランスも変わってくる。今後も授業のUD化と個別の支援を組み合わせる特別な支援の必要な児童生徒が満足感を味わえるような授業実践が進められることを望んでいる。

平成21年度研究員

上原 寿子 長谷川真世
新井 邦子 土屋 弘